

若年層向け公共交通利用促進プロモーション業務に関する質問及び回答

番号	質問概要	回答
1	若年層利用者（9%）について、全体ユーザーおよび若年層ユーザーそれぞれにおいて、特に利用率の高い機能や交通手段があれば、教示いただきたい。	令和6年度のGunMaaSアンケート及び関連調査結果を踏まえ、若年層と全体ユーザーの利用傾向について、以下のとおり回答いたします。 1. 利用率が高い機能 全体ユーザー：GunMaaSの利用目的としては、「観光」「レジャー」「ビジネス」が多く挙げられています。利用されている機能としては、「経路検索」「MAP」「交通チケット購入」が多く利用されています。 若年層ユーザー：サンプル数は少ないものの、利用されている機能としては「経路検索」や「MAP」機能が挙げられます。ただし、「経路検索」や「MAP」機能はログインを必要としないため、現時点では利用実態データが取得できていない状況です。 2. GunMaaSで利用されている交通モード 全体ユーザー：GunMaaS上で利用されている交通モードとしては、「電車」「バス」「タクシー」「デマンド交通」があります。 電子チケットの販売実績では、「ぐんまワンデーローカルバス」が最も多く、次いで「わたらせ渓谷鐵道普通乗車券」「中心市街地乗り放題券」「わたらせ渓谷鐵道1日フリーきっぷ」「伊香保ライナー」などが比較的多く売れています。 令和7年9月末時点の上記電子チケット販売実績は以下のとおりです。 ぐんまワンデーローカルバス：約15,000枚 わたらせ渓谷鐵道普通乗車券：約2,300枚 中心市街地乗り放題券：約1,600枚 わたらせ渓谷鐵道1日フリーきっぷ：約1,500枚 伊香保ライナー：約900枚 また、その他の交通モードの利用実績は以下のとおりです。 タクシー：約50件 これらの実績から、鉄道とバスの利用が多い傾向です。 若年層ユーザー：交通モード別の詳細な利用データは取得できていません。 （参考）群馬県交通まちづくり戦略の策定によると、高校生の移動手段としては「鉄道」と「自家用車」の割合が高く、特に保護者によるマイカー送迎が多い傾向にあります。
2	令和6年度県政重要課題に係る県民アンケート調査を拝見した限りでは、経路検索やMapの利用が比較的認知されているように見受けられる。若年層に特有の利用傾向や、他の年代との違いがあれば、教示いただきたい。	令和6年度県政重要課題に係る県民アンケート調査において、「経路検索」や「MAP」機能は、GunMaaSの中でも認知度が高い機能として挙げられています。ただし、「経路検索」や「MAP」機能はログインを必要としないため、現時点では利用実態データが取得できていない状況です。 若年層に特有の利用傾向としては、若者割引制度の活用が挙げられます。これは、前橋市在住の13歳から22歳までの若者を対象に、GunMaaSサイト上でマイナンバーカードと交通系ICカードを登録することで、割引対象の路線バスの運賃が10%割引されるサービスです。 この制度に関連して、GunMaaS内での県内19歳以下のマイナンバー登録認証数は約530人で、全体登録認証数の約14%を占めています。このことから、一定数の若年層がサービスを利用していると考えられます。 なお、他世代の登録認証数は以下のとおりです。 20代：約450人 30代：約420人 40代：約500人 50代：約540人 60代以上：約1,100人 GunMaaSの利用とは異なりますが、中高生の移動に関して、ここ数年群馬県は自転車事故が全国ワースト1位です。 https://www.atpress.ne.jp/news/541965 このデータからも通学時の移動において、若年層は自転車での移動に依存していることが推察されます。 自転車事故縮減の観点からも、公共交通の利用を促していくことも目的の一つと考えております。
3	・割引キャンペーン等の企画実施は可能であるか。 ・可能である場合、既存キャンペーンとの連携の可否、ならびに連携可能なキャンペーンの内容について教示いただきたい。 ・連携可能な既存キャンペーンが存在しない場合であっても、企画提案自体に問題がないのであれば、キャンペーン実施に伴う特典費用を公募予算内へ賄う必要があるかについても、併せて教示いただきたい。	割引キャンペーン等の企画・実施につきましては、内容によっては実施可能です。ただし、システムベンダーの関与が必要になるため、システムや運用に関与する内容（フロントエンド・バックエンド含む）については、調整や技術的対応に時間を要し、年度内の事業遂行が困難となる可能性があるため、推奨いたしません。 そのため、比較的实施しやすいプロモーション（例：既存チケットの活用や周知活動）を中心とした企画を検討いただくことを推奨します。 連携可能な既存キャンペーンがない場合でも、企画提案自体に問題はありませんが、キャンペーン実施に伴う特典費用は公募予算内で賄ういただく必要があります。
4	■仕様書 p.3（4）事業の成果目標 ・県内19歳以下のGunMaaS登録者数300人程度増加（登録割合約1%） 昨年度の事例を拝見したところ、Googleアナリティクスを用いて成果目標の指標を計測することが想定されていると考えられる。 （参考：https://guide.g3m.jp/minnadegunmaas/） 本事業において登録者数300人増加という数値目標を設定する場合、群馬県側においてトラッキングに関する協力をお願いすることは可能であるか。 また、目標の起点となる「プロモーション開始時点の県内19歳以下のGunMaaS登録者数」および「業務期間中の増加数」について、定期的に群馬県側から情報提供いただくことは可能であるか、併せて伺いたい。	GunMaaS本体サイトへのGoogleアナリティクスの埋め込みには、システムベンダーの対応が必要となり、調整や技術的対応に時間を要し、年度内の事業遂行が困難となる可能性があるため、原則として推奨いたしません。 一方で、キャンペーン専用サイトを別途構築する場合には、Googleアナリティクスの導入は自由に行うことが可能です。成果指標の計測を行う際は、こうした構成をご検討いただくことを推奨いたします。 また、事業の成果目標として設定されている「県内19歳以下のGunMaaS登録者数300人程度増加」に関連し、「プロモーション開始時点の登録者数」や「業務期間中の増加数」などのデータについては、定期的に県側から提供することは可能です。
5	GunMaaSのDAU（Daily Active Users）について、数値をご教示いただきたい。 ※若年層登録者が日常的にGunMaaSを利用しているかどうかを確認するための参考としたい。	Dailyの把握はできません。1ヶ月単位での利用状況把握（月末時での最終ログイン情報）となります。提供方法については、契約後に受託者と協議させていただきます。
6	MaaS推進係において、GunMaasが若年層に訴求すると考えられているポイントがあれば、教示いただきたい。	提案各社において提案をお願いいたします。
7	仮に、GunMaaS自体が若年層に受け入れられにくいと判断された場合、本事業においてはGunMaaSとの連動を行わず、公共交通機関の認知度向上や利用促進を通じた設備維持等を目的とした提案を行う形でも差し支えないか、ご確認させていただきたい。	「GunMaaS自体が若年層に受け入れられにくいとなった場合」とのことですが、受け入れてもらうための提案をお願いいたします。 「GunMaaSと連動せずに公共交通機関の認知度向上」について、目的は公共交通の利用促進になりますので、ご提案していただくことに差し支えございません。 「利用促進からの設備維持などを促す提案」について、ご提案していただいても構いませんが、本業務の趣旨にそぐわないため、プロポーザル評価の対象となりません。
8	現在あるリアルタイムルート検索について、当社が外部からアクセスし、当社が提案するキャンペーン又は付加価値サービスに使用できるかどうか、ご確認させていただきたい。	調整が長期間に及ぶことが予想されるとともに、システム改修に多額の費用が掛かることが想定されるため、利用を想定しない形で提案をいただきますようお願いいたします。